第１６回　和歌山県河川整備計画に係る委員会　議事概要

～切目川ダム検証に係る学識経験者からの意見聴取（第３回）～

【開催日時】平成 22 年 12 月 6 日（月）13:30～15:30
【開催場所】アバローム紀の国　４Ｆ　羽衣の間
【出席委員】井上和也委員（会長）、水田義一委員、井伊博行委員、
久次米英昭委員、堀木信男委員（５名）

【議事概要】（○：委員意見等、→：事務局説明等、（ ）内頁数：資料１の該当箇所）

１．治水の総合評価

○　柔軟性（p.27）に関し、基本方針レベル以上への引き上げが検討されているが、ダムは基本方針レベルまで達成されているのか。

→　ダムは基本方針レベルの対応をしている。

○　そうであれば、掘削等の河道改修案に関しては基本方針レベル対応について柔軟性を考慮しないといけないが、ダムに関しては基本方針以上の対応に意味があるのか。

→　そのように理解している。

○　流量配分図（p.13.14）において、切目川ダム上流の流量が 230 m^3/s、ダムが無い場合のダム下流の流量が 210 m^3/s となっているが、ダム案では基本方針レベルの流量で、他の案は整備計画レベルの流量ということか。

→　いずれも 1/20 の整備計画レベルの流量である。流量の差は、洪水の到達時間の差によるものと思われるが確認する。

○　以前も指摘したが、ダムによるカット量が下流に行くほど小さくなることについて、パブリックコメント等では分かりやすい説明が必要と思われる。

○　費用負担率 62.7％（p.17）はどのように求めたのか。

→　ダムの負担率は、1％が水道で、99％が治水であり、検証においては、治水の中でも洪水調節(62.7％)と流水の正常な機能の維持(37.3％)に分ける必要があり、これによりそれぞれの残事業費を算出している。

○　流水の正常な機能の維持が、洪水調節に比べ半分以上と高い比率になっているが、算定方法が決まっているのか。

→　決められたものはないが、一般的なコストアロケーションで使う方法である分離費用身替り妥当支出法により算出している。

○　ダムにおいて唯一問題となるのは環境のことと思われ、評価結果（p.27）に「継続的なモニタリングや必要な環境保全措置、環境配慮を行うこととしている」とあるが、これらについて具体的にやっていくのか確認したい。

→　切目川ダム環境委員会から、継続的なモニタリング、対策として必要なものは実施するよう提言を頂いており、引き続き学識者から助言を頂きながら検討し、可能な限りモニタリングを行って参りたい。

○　ダムを造った後のモニタリングは、ダムを造ることと同じくらい重要であり、実行されることと思うが、昨今、調査費等は削減されているように聞いているので、打ち切られることのないようにされたい。

→　予算確保も含めて努力する。

○　内水氾濫（p.20）に関して、「内水氾濫が発生」、「内水被害が発生」、「内水氾濫の発生リスクが高まる」と表現が異なるが、どれが重いのか。

→　「内水氾濫」と「内水被害」は、特に差はなく、「内水氾濫」に統一する。「内水氾濫の発生リスクが高まる」については、河床掘削・嵩上げ追加案の場合、洪水時の水位が高くなるので、川への流入が困難になり、リスクが高まるとしている。

○　河床掘削･嵩上げ追加案では内水氾濫が発生するとともに､リスクが高まり、内水に対してはより弱くなるというわかりやすい表現にすべきでは。

○　各案の河道の能力が異なるので、定性的な分析で「リスクが高まる」としており、必ずとまでは言えない。

○　遊水地追加案と河床掘削追加案を組み合わせた案は検討しているのか。

→　遊水地追加案（p.8）については、ケース２、３とも、遊水地を配置した位置から下流はダムと同程度の洪水調節量があり､河道は今の計画とほぼ同等であることから(現計画を)補正して検討しており､改めて河床掘削、引堤、嵩上げの案について検討しておらず、他案と比べコストも高いため（それ以上）精度を上げて検討していない。

○　最後に１番重要なのは費用の比較（p.12）であるが、ダム（現行案）の事業費が 142 億円となっているのは、執行されている分も含まれているのか、それとも残事業費か。

→　平成 23 年度以降の残事業費で､先ほど説明した費用負担割合によるもの。

○　全く事業を行っていないものとして､ダムを新規に建設するとしたらどうか。

→　現在、進捗率が 53.5%であるのでダムの既執行分が約 52 億円強で、河川改修が別途、各案共通である。

○　ダム（現行案）については、既執行分を併せると約 200 億円程度となるが、平成 12 年度にダム計画を策定したときに、今回の様に種々の案を検討しておれば別の選択があり得たということか。

→　今回、コストのみを考えて、下流を掘削、中・上流を嵩上げという案を考えているが、従来は、洪水時の水位を上げてまでコストが低い案を選ぶという判断はしていない｡整備計画では一番安価な河床掘削と比較してダム案が有利ということで事業を進めてきている｡今回、検討においてもダム（現行案）と河床掘削追加案と差額が 50 億円程度と大きく状況は変わっていない。

○　選択取水について、多くのダムでは表層または表層からある程度の範囲でしか取水できないものがあるが、切目川ダムはどのようになっているのか。

→　資料２（p.10）ダム貯水池容量配分図の常時満水位（EL.149.0m）から最低水位（EL.141.0m）までの間において、６段の選択取水管を付けることとなっている。

２．総合的な評価・費用対効果分析

○　前回、11 月 30 日のそれぞれの項目毎の総合評価、今日の治水の総合評価を併せて総合的な評価となっているが、それぞれの項目毎の評価や積み重ねから結論はこうなるということでよろしいでしょうか。

（各委員からは特に異議はなし。）

３．その他

○　以下を事務局から報告

・　今後の進め方として、パブリックコメント、「関係住民等からの意見聴取会」の開催、関係地方公共団体の長、利水参画者からの意見聴取について報告。

・　以上の方々の意見と、本委員会から頂く御意見を併せて報告書（案）としてまとめて、事業評価監視委員会に諮って行く予定。